

安 全 報 告 書

2015年



北九州高速鉄道株式会社

安全報告書目次

1	ご利用者はじめ地元の皆さまへ	1
2	安全に関する基本的な方針	2
3	事故等の発生状況	
	(1) 運転事故	3
	(2) インシデント	3
	(3) 輸送障害	3
	(4) 電気事故	3
	(5) 行政指導等	3
4	安全重点施策及び進捗状況	
	(1) 設備、車両関係	4～8
	(2) 教育、訓練	9～10
	(3) アルコール検査の実施	11
5	安全管理体制	
	(1) 安全管理組織体制	12
	(2) 安全管理方法	13
6	安全対策の実施状況	
	(1) 教育関係	14
	(2) ATC（自動列車制御装置）について	15
	(3) 駅誤通過防止機能について	15
	(4) 安全に関する現場等における取り組み	15
	(5) 監視カメラ、録画映像機能について	16
7	北九州モノレールをご利用の皆様へのお願い	
	(1) ホーム下は高電圧で非常に危険です。	17
	(2) 整列乗車及び駆け込み乗車禁止のお願い	17
	(3) 走行中の危険防止について	17
	(4) 非常通報装置	18
	(5) 列車非常停止ボタン	18
8	北九州モノレール沿線で工事等をされる方へお願い	19
9	ご連絡先	

1 ご利用者はじめ地元の皆さまへ

いつも北九州モノレールをご利用いただき、誠にありがとうございます。

また、平素より公共交通機関としてのモノレール事業にご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。

おかげさまで弊社は平成27年1月9日をもちまして、開業30周年を迎える事ができました。また、同年3月2日には、累計乗車人員333,333,333人を達成することが出来ました。

これは、お客さまを初めとする地域の皆様や多くの関係者のご支援の賜物であり、この場を借りて謹んでお礼申し上げます。

また、平成27年3月には安全運行の指針でもあります、鉄道運転無事故表彰を九州運輸局より4期連続で受彰し、その記録も継続中であります。(※1期…30ヶ月)

これからも運転無事故を目指し、ハード・ソフト両面における安全対策をさらに整え、鉄道事故・災害等への対応力の強化を図るとともに輸送の安全マネジメントを推進してまいります。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、輸送の安全を確保するための当社の基本的な方針、管理体制及び取り組み等をまとめ、ご利用のお客様や沿線の皆様に広くご理解を頂くために作成したものです。

安全・正確・快適をキーワードに、皆様の生活の一部として、信頼して乗車いただけるよう、PDCA サイクル（P=Plan「計画」・D=Do「実施」・C=Check「確認」・A=Act「改善」）を回し、安全管理体制の強化に最善を尽くして参りますので、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

北九州高速鉄道株式会社
代表取締役社長 齊藤 淳



2 安全に関する基本的な方針

輸送の安全を確保するための基本的な方針（行動規範）

- （１）規則を遵守し厳正、忠実に職務を遂行します。
- （２）常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努め、不安があれば必ず報告、相談します。
- （３）推測によることなく必ず確認し、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをします。
- （４）情報は洩れなく迅速、正確に伝えます。
- （５）常に問題意識を持ち、不安全要素を未然に排除します。

なお、この基本的な方針は業務の実施状況等を踏まえ、必要に応じて見直してまいります。

安全方針

安全安定輸送こそ交通事業者である我社の経営の根幹である。我々は、人命を最優先とし、社員一丸となって輸送の安全確保に努める。

3 事故等の発生状況

(1) 運転事故

平成26年度に運転事故は発生していません。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
運転事故	0	0	0	0	0

(2) インシデント（運転事故が発生する恐れがあると認められる事態）

平成26年度にインシデントは発生していません。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
インシデント	0	0	0	0	0

(3) 輸送障害（30分以上の遅延及び運休）

平成26年度に設備故障による輸送障害が1件発生しています。

これは、企救丘駅の分岐器に異常が発生し、復旧まで運行停止をした為です。
当日は多くのお客様にご迷惑をおかけ致しまして申し訳ございません。

今後、再発防止に全力を挙げて取り組んでまいります。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
輸送障害	0	1	0	1	1
設備故障等	0	1	0	1	1
自然災害等	0	0	0	0	0
第三者行為等	0	0	0	0	0

(4) 電気事故

平成26年度に電気事故は発生していません。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
電気事故	0	0	0	0	0

(5) 行政指導等

平成26年度に行政指導等を受けた事象はありませんでした。

4 安全重点施策及び進捗状況

車両、保安設備等の更新及び保守点検を計画的かつ適切に実施すること、並びに係員に対して各種教育、訓練を実施すること等により、安全方針を実行し、安全・安定輸送の確保、向上を図るため、次の項目を安全重点施策として取り組んでいます。

また、安全に関する目標として「鉄道運転事故及びインシデント」及び「係員の取扱い誤り（ヒューマンエラー）」の年間ゼロを掲げ、全社員で取り組んでおります。

（１）設備、車両関係

安全運行の維持、向上を図るため、次の取り組みを行っています。

ア 設備の更新

設 備	計 画	進捗状況
列車無線 （小倉基地局）	平成29年度に更新予定	更新に向け準備中
主回路装置 （車両）	平成19年度に1編成を延命更新実施。 平成22年度より毎年1編成ずつ延命更新を実施する。	6編成完了、計画通り

※ 当社所有の編成数は10編成

主回路装置更新に伴い、チョッパ装置を撤去して、インバータ装置を艤装しました。



チョッパ装置撤去



低圧ツナギ箱改良



台車枠改良



インバータ装置艤装

イ 設備の保守、点検

① 電気設備長期修繕計画による修繕業務の施工

経年による老朽化の進んだ高圧ケーブル・トロリー線（電車線）及び分岐器駆動装置等の取替え修繕を行っています。



高圧ケーブル張替



トロリー線（電車線）張替



分岐器駆動装置取替



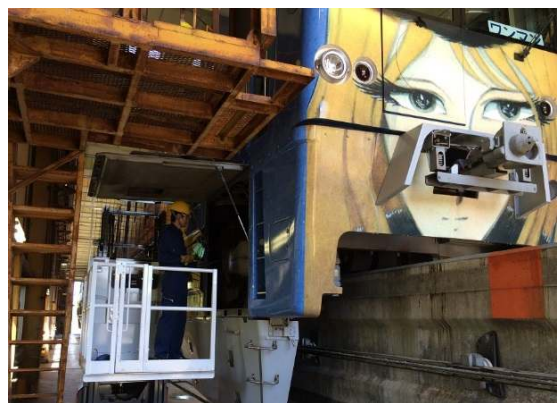
分岐器安定面補修

② 車両長期修繕計画による計画的な検修業務の施工

安全運行の確保及び車両性能維持のため、長期に渡る計画的な修繕を行っています。



車体塗装や検査のため車体分離作業



点検作業

- ③ モノレール主要構造物の長寿命化対策と劣化進行抑制の修繕対策の計画的実施
長寿命化対策、劣化進行抑制対策として、RC 支柱の耐震補強やひび割れ対策、鋼構造物の耐震補強や塗替、PC 軌道桁のひび割れ補修や支承の塗替等を行いました。

(a) 耐震補強

・RC（コンクリート）支柱の補強

片野～北方間の RC 支柱 19 本について、柱をコンクリートで巻きたてる工法で、地震対策を行いました。



施工前



施工後（支柱が太くなっています）

・鋼桁、鋼支柱の補強

片野～城野間及び徳力嵐山口～企救丘間の鋼支柱の一部に、大地震発生後にモノレールの鋼軌道桁が落ちないように、落橋防止装置を取り付けました。



施工後



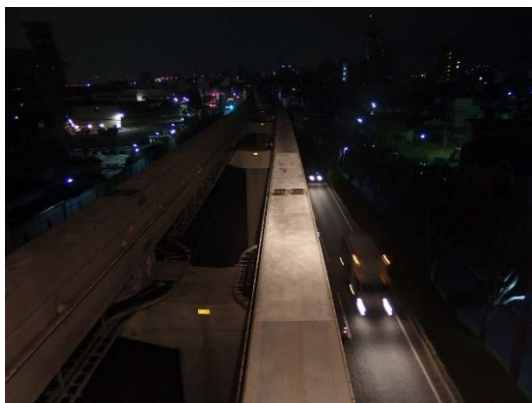
施工後

(b) 劣化対策・修繕対策

劣化進行抑制対策として、PC 軌道桁の不陸対策（走行面の段差修正）や支承（軌道桁を支えている部材）、鋼軌道桁、鋼支柱の塗替を行いました。

- PC 軌道桁の不陸対策

競馬場前～守恒間・・・18本のPC 軌道桁において、樹脂系モルタルによる不陸対策を行いました。



施工後



施工後

- 支承の塗替

北方～競馬場前間・・・109基、徳力公園前～徳力嵐山口間・・・132基の支承において塗替による修繕を行いました。



施工前



施工後

- 鋼軌道桁及び鋼支柱の塗替

片野～城野間及び徳力嵐山口～企救丘間の一部の鋼軌道桁及び鋼支柱において、外面及び内面（箱状になっている）を塗替にて修繕を行いました。



全景 1（塗替前）



全景 2（塗替後）



全景 3（塗替後）



全景 4（塗替後）

(2) 教育、訓練

ア 人材教育

各職場において、業務研修会、安全会議等を定期的に開催し、運転関係業務の教育、安全教育等を実施しています。また、外部専門機関等により、各分野の専門知識の教育及び安全教育を実施し、係員の知識及び安全意識の向上を図り、より一層の安全運行に努めています。

イ 非常呼出訓練

異常時における緊急呼出体制及び連絡通報経路の確認を年間数回実施しています。平成26年度は、3回（4月、9月、12月）実施しました。

ウ 運転事故復旧総合訓練

毎年、運転事故、車両故障等を想定しての総合訓練を全社的にを行い、万一の事故に備え、安全、正確かつ迅速に作業が行えるように訓練を実施しています。

平成26年度は、7月に高所作業車を使用した乗客の救出訓練、11月には基地構内にて列車を使用した併結訓練を実施しました。



高所作業車による救出を開始



高所作業車で乗客を救出



併結（連結）後の避難誘導



手信号の合図により併結列車を収容

エ 工作車（保守用作業車）の異常時訓練

線路等設備の保守点検等を行う工作車が、故障等により走行不能となった場合を想定して、復旧する訓練を12月に実施しました。



工作車同士の連結

オ ホーム下へ転落したお客様の救出訓練

ホーム下へ転落したお客様の救出訓練を7月の3日間、全駅務員を対象に実施しました。



指令連絡



列車への停止信号発信



転落者救出



転落者の手当て

（３）アルコール検査の実施

乗務員及び乗務する可能性のある者全員に対し、出勤時に点呼助役と正対してアルコール検査を実施し、酒気を帯びた状態での乗務の完全防止を図っています。
平成１９年４月より実施しています。



アルコール検知器

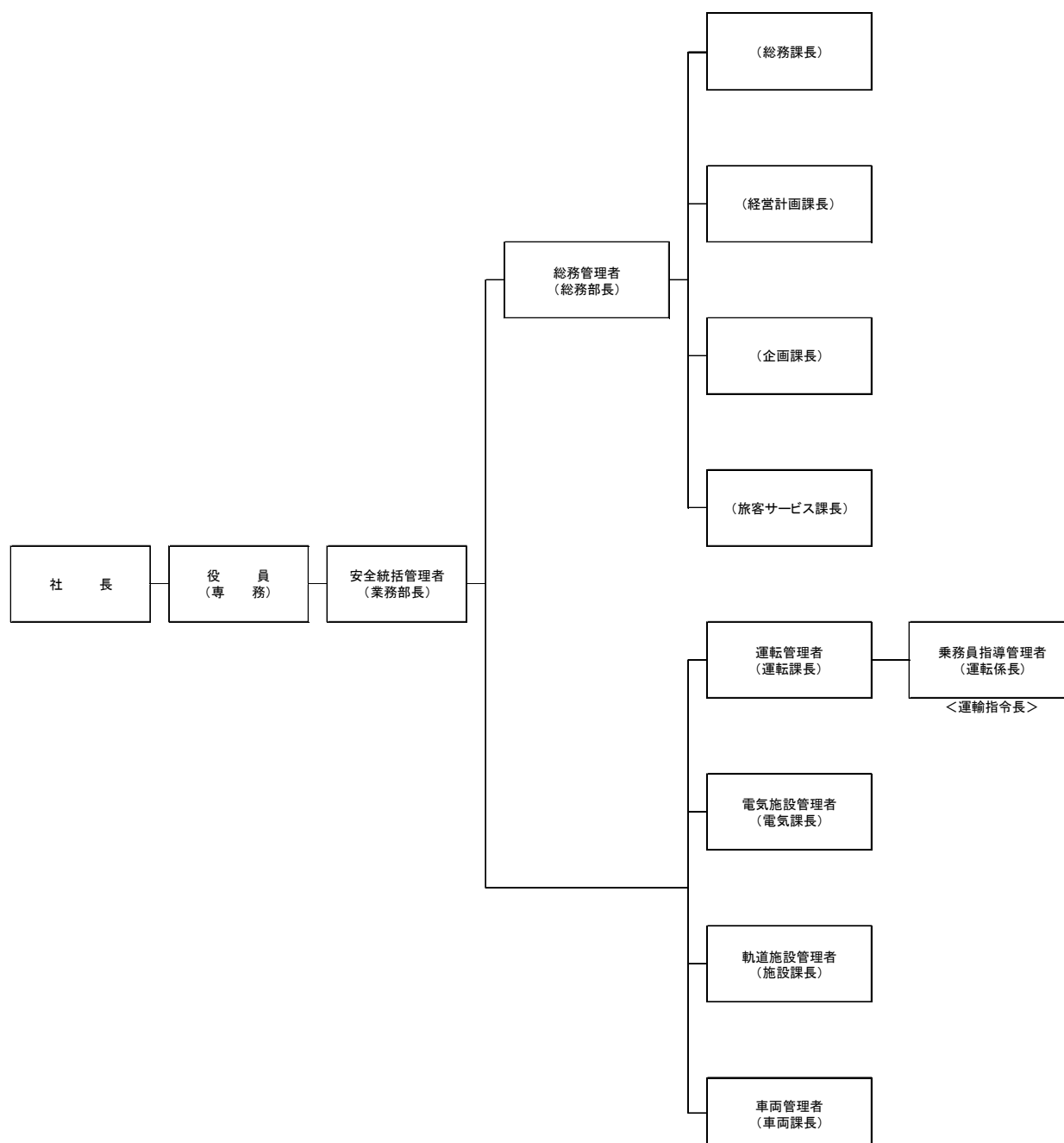


点呼時にチェックを受けます

5 安全管理体制

(1) 安全管理組織体制

当社は、運輸事業における安全の確保に関し、社長をトップとする安全管理組織を構築し、各々の管理者の役割及び権限を明確にしています。



平成27年4月1日現在

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
専 務	輸送の安全の確保に関して、社長を補佐する。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運 転 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、乗務員の資質の保持に関する事項を管理する。
電気施設管理者	安全統括管理者の指揮の下、電力、信号及び通信に関する施設並びに設備に関する事項を統括する。
軌道施設管理者	安全統括管理者の指揮の下、軌道施設に関する事項を統括する。
車 両 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。
総 務 管 理 者	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

(2) 安全管理方法

ア 安全管理委員会

輸送の安全に関する計画の策定、実施及び確認並びに見直しを行い、輸送の安全性の維持、向上、事故防止対策の確立を図るため、事故防止委員会と統合、新たな安全管理組織としてメンバーを構成（委員長：社長）し、年4回定期とその他適宜開催する安全管理委員会を設置しています。

イ 社内保安監査の実施

安全管理体制が、適切に確立され、有効に実施、維持、機能しているか検証し、安全に関する課題及び問題点を明らかにするため、年1回以上社内保安監査を実施しています。

ウ 役員職場巡視

定期的に現場を巡視し、安全管理状況の確認を行っています。平成26年度は、12月の年末年始輸送安全総点検時に実施いたしました。

6 安全対策の実施状況

(1) 教育関係

ア 乗務員養成

当社のモノレールを操縦するには、甲種電気車運転免許を保有している必要があります。免許試験の内容は、適性検査（精神及び医学）、筆記試験、技能試験があり、すべて合格しなければ免許を取得することは出来ません。

当社の場合は、直接採用した社員を他社の養成所に入所させ、約9ヶ月間学科と技能の講習を行い、免許を取得させています。免許取得後は、当社モノレールの運転に関する学科及び技能講習、また、それぞれの試験を行い、十分な知識及び技能の保有を確認したうえで、乗務させています。

甲種電気車運転免許を保有している者を採用した場合（他社からの出向等）においても、同様に当社において養成教育を行い、十分な知識及び技能の保有を確認したうえで、乗務させています。

イ 救急救命講習受講

駅構内や車内で発生した急患のお客様等の救助のため、平成26年度は、北九州市防災協会主催の防災講習会に15名参加しました。今後も毎年、受講していきます。また、9月には消防職員を講師として招き、AED（自動体外式除細動器）を使用した救急救命講習を全社員が受講し、救命救急に関する技術を習得しました。



心肺蘇生法のやり方とAEDの取扱いを練習

（２）ＡＴＣ（自動列車制御装置）について

当社の路線は、全線にわたりＡＴＣを設備し、保安度を維持しています。

ＡＴＣは、先行列車との間隔、進路の条件に応じて、列車の速度を自動作用により減速又は停止させる機能をもっています。また、列車の速度が制限を超えた場合にも自動的にブレーキがかかり、制限速度以下まで減速する機能ももっています。

（３）駅誤通過防止機能について

たとえ乗務員が何らかの原因でブレーキ操作を行えなかった場合でも、この機能により列車には自動的にブレーキがかかり駅に停車させます。

（４）安全に関する現場等における取り組み

お客様に安全、正確、快適に目的の駅まで乗車していただくため、次の業務を行い、モノレールの安全運行を支えています。

ア 車両定期点検

当社は車両が１０編成（４０両）あります。編成毎に点検を行っています。

検 査 名	検査周期	検 査 内 容
全 般 検 査	８年	装置全般を取り外して分解検査を行う。
重要部検査	４年	重要な装置の主要部分について分解検査を行う。
３ヶ月検査	３ヶ月	車両各部の状態及び機能を検査する。
列 車 検 査	３日	車両の走行装置及び客室内の状態を検査する。

その他、定期的にタイヤ検査を実施し、走行距離等を考慮して、必要に応じ随時タイヤ交換を行っています。

イ 設備保守業務

最終列車を車庫に留置後から、始発列車の発車までの夜間時間帯に、工作車（保守用作業車）を使用する等、軌道設備、電車線設備、信号設備、通信設備等の点検整備を行い、各設備の維持・修繕に努めています。



変電所設備の点検



車両のタイヤ交換作業

（５）監視カメラ、録画映像機能について

各駅上下ホームと各駅コンコース、及び主要施設に関しては監視カメラによる監視体制を実施しており、必要に応じて監視カメラで撮影した録画映像のチェックを行う事で、安全運行を確保しています。



ホーム用監視カメラ



コンコース用監視カメラ

7 北九州モノレールをご利用の皆様へのお願い

(1) ホーム下は高電圧で非常に危険です。

ホーム下には、高電圧の電車線が設備されています。万一、物を落とされた場合には、駅係員までご連絡をください。ホーム下に降りると、感電の恐れがあり大変危険です。絶対に降りないようにお願いいたします。



(2) 整列乗車及び駆け込み乗車禁止のお願い

ホームで、進入してくるモノレールを待つ間は、白線の内側に下がり、整列用ラインに沿ってお待ちください。

また、ドアが閉まっている最中の駆け込み乗車や降車は、転倒、他のお客様との衝突、ドアに挟まれる等危険です。絶対にお止めください。



(3) 走行中の危険防止について

走行中は、やむを得ず急ブレーキをかけることがあります。お立ちの方は、つり革や手すりにつかまるなどしてご乗車下さい。また、走行中の車内の移動は危険です。特にお年寄りや小さなお子様連れの方はお気を付け下さい。

(4) 非常通報装置

全列車に設置してあります。車内でトラブル等が発生した場合には赤いボタンを押して下さい。乗務員と通話することができます。



各客室に設置しています



運転台の乗務員と通話ができます

(5) 列車非常停止ボタン

全駅のホームに設置してあります。赤いボタンを押すことで全列車が停止いたします。ホームで異常を発見した場合には駅係員にお知らせください。



全駅の上下ホームに2か所ずつ設置しています

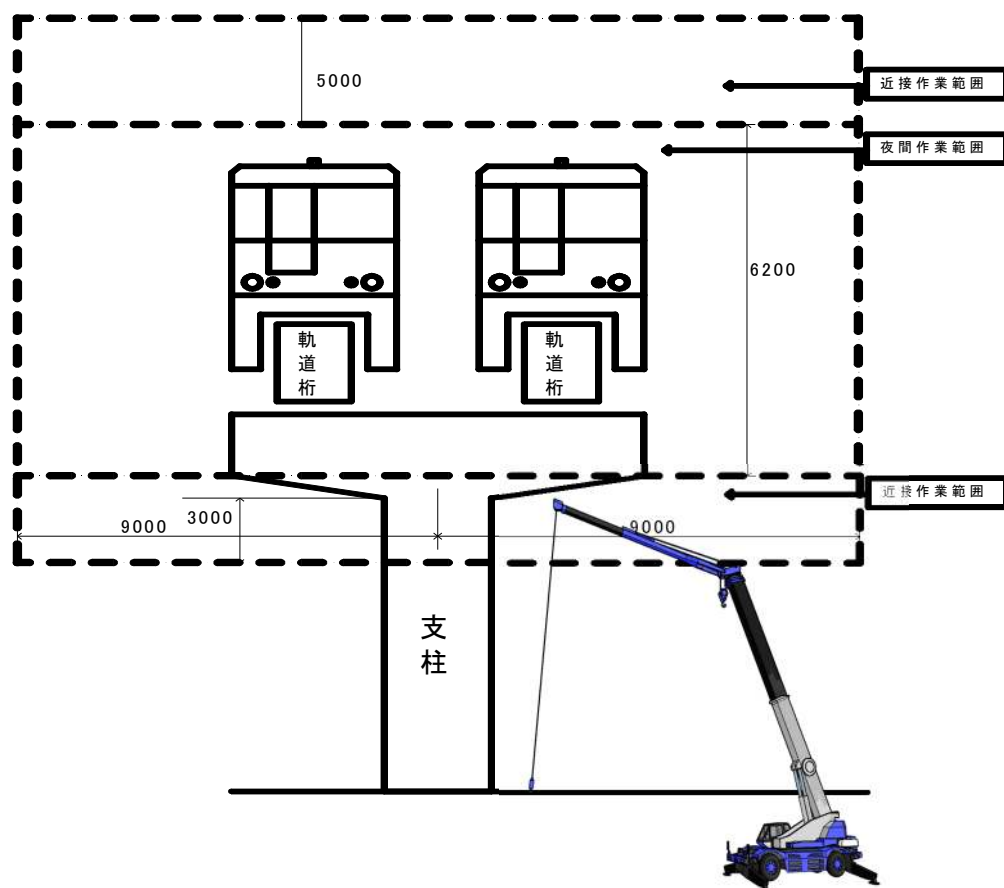
8 北九州モノレール沿線で工事等をされる方へお願い

小倉～企救丘駅間で営業しております北九州モノレールは、列車が軌道に跨り、軌道側面の電車線（直流 1500 ボルト）から電気を供給して走行しております。

このため、当社の営業時間中に沿線で重機械の使用等、モノレール構造物に近接する作業を行う場合は、感電事故や車両接触事故をはじめ、急ブレーキによる乗客の転倒・負傷・その他、重大な事故や輸送障害を招くおそれがあります。

当社では、重大事故防止の観点から『近接作業範囲』を設定しています。この範囲内での工事等は、当社と事前に協議していただき、『昼間作業』か『夜間作業』を決定し、『作業申込書』を提出していただきます。

モノレール沿線で工事等をされる場合には、あらかじめ下記までご連絡を頂きますようお願い致します。



連絡先

北九州高速鉄道株式会社

運転課 運転指令

〒802-0981

北九州市小倉南区企救丘二丁目 13 番 1 号

TEL 093-961-0421

FAX 093-961-0667

9 ご連絡先

本報告書は、軌道法第26条（鉄道事業法第19条の4に準用）に基づき作成し公表するものです。本報告書に関するご意見・ご要望は、下記までお寄せいただきますようお願いいたします。

北九州高速鉄道株式会社 業務部 運転課

TEL 093-961-4603（平日8：30～17：15）

FAX 093-961-0667（24時間）



北九州高速鉄道株式会社

〒802-0981 北九州市小倉南区企救丘二丁目13番1号

URL:<http://www.kitakyushu-monorail.co.jp>